

二度目の荒修行と

経験して・・・

先月十日になりますが、世界三大荒修行の一つである、千葉県市川市は、日蓮宗法華経寺内で行われた寒杵百日の荒修行を無事に成満する事が出来ました。

この度は自身二度目となる修行で、一度目とは違い、精神的には余裕がある様に思っておりましたが、やはりその時その時にしか味わえない修行というものがありまして・・・本当に心身共に厳しい修行で正直、何度も挫折してしまいそうになりました。早朝二時には起床し、三時の水行、四時からの勤読に始まり、三時間おきに行われる、雪が降り積もる中での水行と、終わることのない勤読に一日二度の食事(重湯)・ホントに気の遠くなるような杵百日間でした。しかしその様に、自分がどん底にいる時に心の支えとなり、陰の力となって励まして下さったのが、家族は勿論のこと、やはりこの『人生ハインド仏句』を愛読して下さっている檀家・信徒様方一人一人の存在の大きさでありました。『人間はどんな時

でも決して一人ではない』ということに肌で実感することが出来ました。成満できたのも偏に檀家・信徒様方の日々の信仰心の賜と、まずもって深く感謝申し上げます。

成満以後、心機一転、自分が出来る限り国家の再建、社会の福祉に寄与し、御先祖様からの御恩、父母様の御恩、そして御縁ある方々から頂戴した御恩に報いる為、益々修法道を精進に精進を積み重ね、檀家・信徒の皆様は勿論のこと、未信徒教化に全力を注ぐ気持ちで一杯です。檀家・信徒様方の倍旧の御指導を心よりお願いを申し上げます。

さて、『過去が咲いている今・未来の蕾で一杯の今』陶芸家・河井寛次郎さんの言葉です。「過去」がその時その時の「今」となって咲いた。「過去」の結晶である「今」が「未来」に向かっての蕾となり、さらに花開いていくということであります。『今のあなたが今のあなたの運命に相応しい』と、お釈迦様は仰っています。また『あなたの行動はあなたの未来の予言者である』と、キリストさんも仰っています。つまり今現在の自分は、誰かが用意してくれたものではなく、現在の自分の立場は紛れもなく、自分自身が築きあげたということになりました。そうであれば一度しかない人生に悔いを残さぬ様

に夢を描き、その『夢に向かって執念を燃やし、そして新しい花を咲かせる』ように邁進(ばくしん)する人生でありたいものであります。

松下電器の創始者である松下幸之助さんは『執念ある者は可能性から発想する。執念のない者は困難から発想する』という言葉が仰っておられます。

仏経の中にも「意欲・執念・好奇心」という言葉が出てきますが例えば、何かこういう事をしたという「意欲」を持つと、積極的に攻めるしかないから、やっぱり「執念」が必要になってくる。諦めないという事です。その為に色んなものを見たり聞いたり探したりして勉強をする。それが「好奇心」という事です。だけど執念がないと、そういう積極性も好奇心も出てこないから、私達はどうしても困難から発想してしまいがちです。本当は出来るのに、私達は何か出来ない理由ばかり探し出して・・・。できるかどうか、ハラハラするところに本当のやりがいがあるわけで、困難から発想していたら、とても前になんか進んではいけないですよ。

自身二度目となった今回の荒修行では、この困難と可能性が頭の中で行ったり来たりする修行となりました。周りの修行僧との人間関係を円満に保ちながら、しかもその円満さを崩さない

ように気をつけながらの修行は、ある意味初行の時以上の苦しい修行となりました。仲間の中には「こんな修行はもう無理だ!」と言って諦めかけた仲間もいました。しかし周りの修行僧と本気でぶつかり合うその中で、一筋の光明を見出しては、解決の糸口としていきました。そんな百九十四名という大所帯でしたが、最後にはまさに困難からではなく、可能性からの発想で、「異体同身」を実現でき、百日目「解散!」の声と共に先輩も後輩もお互いに抱き合っ

て涙しながら、お互いの成満を悦ぶという光景を目の当たりにすることが出来ました。そこには何の計算も欲もない、ただ可能性を信じて修行を続けた、そんな透き通った透明な仏様の様な心を持った修行僧百九十四名の姿がそこにありました。

合掌 副住職 谷川 寛敬

